

若狭における福井県の「でたらめ行政」を検証する（その61）

河内川ダム建設の無駄と無謀 その④③

ひそかに設計変更された河内川ダム 「多目的ダムから洪水調節専用ダムへ」

（小浜市）松本 浩

福井県は国と謀り河内川ダム事業で多額の交付金詐取を計画し且つ実行した。試験湛水は施行されておらず、「多目的ダム竣工」とは民を欺く詐欺である。

平成 13 年 9 月 4 日～9 月 14 日、福井県は霜中町長に代位して上中町上水道新設水源（野木第 1 水源）の揚水試験を業者に依頼し、野木第 1 水源を河内川ダム用水の代替水源とする「上中町上水道（第 3 期）拡張事業変更申請書」の提出を求めたが、霜中町長はこれに同意しなかった。

霜中町長の態度に業を煮やした福井県は、河内川ダムの架空工事（熊川発電所補償調査 2,200 万円等）をでっちあげて数千万円の資金を捻出し、それまで 32 年間無投票選挙であった上中町長選挙を実施させ、霜中町長の追い落としを図った。

しかし、平成 14 年 1 月 27 日、霜中町長は対立候補に圧勝して 3 選を果たした。

同年 3 月 29 日霜中町長は、工事内容を変更しないで事業費を 234 億円から 415 億円に増額する内容の「河内川ダム建設工事に関する基本協定書」に調印した……

しかし、福井県警は同年 6 月 21 日、かねて描いていたシナリオどおり「事前運動と後援会役員への物品供与」容疑で、先ず霜中後援会幹部数名を、次いで霜中町長夫妻を逮捕し霜中町長は即日職を辞した。

新しく就任した津田町長は平成 15 年 3 月 5 日、霜中前町長が提出を拒んだ「上中町上水道（第 3 期）拡張事業変更申請書」を提出して福井県知事はこれを承認した。

福井県作成と見られる本件変更申請の「理由書」は、「現在、上中町では天増（あます）川水源及び井ノ口第 1、2 水源より取水している。しかし、井ノ口第 1、2 水源は現在、取水能力を最大限利用しており、既存の水源では今後の給水量の伸びに対処できない状態

である。したがって、新たに水源（河内川ダム及び野木第 1 水源）を設け、将来において安定給水を図ることを目的とする」と述べ、河内川ダムからの取水が見込めない「既存の水源では」小浜市田鳥に予定されている使用済み核燃料「中間」貯蔵施設に伴う用水の必要に対処できない“窮状”を訴えた。

これに対して県の変更認可「理由書」は、国への報告の形をとって「平成 34 年度の上中町の計画給水人口は 9,010 人と予測され 1 日最大給水量は 5,800 m³と計画されている。これに対して、平成 34 年度の河内川ダム水源における責任受水量 2,590 m³に天増川水源と野木第 1 水源の安全揚水量を加えた総取水可能量は 8,720 m³となり、十分取水が可能である」と述べ、小浜市田鳥に誘致計画の使用済み核燃料「中間」貯蔵施設への給水を予定した上中町上水道の 1 日最大給水量 5,800 m³に対して、河内川ダム水源 2,590 m³が見込めない現状であっても、既存の天増川水源 1,760 m³、井ノ口第 1、2 水源 1,880 m³に野木第 1 水源の安全揚水量 2,200 m³を加えた総取水可能量は 5,840 m³となり、必要な水量は十分確保できると国に保証した。

なお、上中町上水道から小浜市田鳥簡易水道への飲料水供給については、すでに平成 10 年 3 月 31 日の「覚書」（国・県・小浜市・上中町）により合意済みであった。

河内川ダムが多目的ダム（洪水調節・かんがい用水・工業用水・上水道用水）の用を果たせないことは、ダムサイトの地質調査によって少なくとも平成 4 年（1992）には明白になっていたもので、国も県もダムの代替水源を求めていたのである。

以下、河内川ダム建設予定地の地質調査と同建設工事予算などの経過を概観する。

昭和 60 年度(1985) : 地質解析	6,000 万円
〃 61 年度(1986) : 地質解析	1 億 2,400 万円
〃 63 年度(1988) : ダムサイト地質解析座取り検討	1 億 2,600 万円

平成元年(1989) 3月31日 「河内川ダム建設工事に関する基本協定書」締結
(福井県・小浜市・上中町) 総事業費 234億円・工事完成 平成8年3月31日

甲 乙 丙 第2条 (共同工事の内容等)
三 工事内容 別添事業計画書のとおり

2 前項の内容を変更しようとするときは、甲、乙、丙が協議して定める・・・

松本注) 福井県は上記「別添事業計画書」につき「不存在により非公開」とし、
小浜市、上中町は「別添事業計画書」は「受け取っていない」という。
ダムの内容は、初めから福井県が自由に変更できるように仕組まれていた。

平成元年度(1989) : ダムサイト地質解析評価	1 億 5,340 万円
ダム本体工事費予算	131 億 5,200 万円
〃 2 年度(1990) : ダムサイト地質総合解析	1 億 4,273 万円
ダム本体工事費予算	125 億 9,600 万円
〃 3 年度(1991) : ダムサイト地質調査	5,289 万円
ダム本体工事費予算	69億9,800万円

後年、基本設計会議用「試験湛水事前説明参考資料」として提出され、
開示請求人(松本)には隠蔽した地質調査、解析の一例を示すと一

- 掘削面に現れた岩種写真 写真-5 石灰岩の容食洞 位置:左岸側 J 3 DC24付近
石灰岩には所々で溶食洞が確認された。写真のものは幅20cm 長さ40cm 奥行き30
cm以上の溶食洞であった。
- 左岸堤趾部の石灰岩の状況 ○左岸側の堤趾部に分布する石灰岩の鍾乳洞につ
いて 写真・石灰岩の溶食洞は流入粘土で充填されている。
(写真はある程度の流入粘土を除去した後の状況であるが、溶食洞は更に奥まで
続いている。)左岸側堤趾部に現れる石灰岩には溶食跡が頻りに認められた。
DC-25 J2+2付近では幅(奥行き)50cm以上の溶食洞が3箇所確認された。
- カーテングラウチングパイロット孔で判明した留意点。(2)左岸リム部において
カーテンライン直下流に想定される石灰岩鍾乳洞を要因とする超高透水性→施工
範囲を深部まで下げ、調査を行いながら施工する。
EL140m水平地質区分図 鍾乳洞が存在する可能性が高い石灰岩がカーテンライン
の直下流に存在する。
- 右岸傾斜部の深部における石灰岩の透水性について 左岸リム部で見られたよう
な超高透水性が存在する可能性もあるため、パイロット孔により混在岩の分布深
度は確認する。

平成 4 年度(1992) : ダムサイト地質調査	0 (終了)
ダム本体工事費予算	61 億 6,800 万円
平成 5 年度(1993) : ダムサイト地質調査	0
ダム本体工事費予算	55 億 5,100 万円
平成 6 年度(1994) : ダムサイト地質調査	0
ダム本体工事費予算	60 億 9,800 万円
平成 7 年度(1995) : ダムサイト地質調査	0
ダム本体工事費予算	54 億 2,500 万円

平成8年(1996) 3月31日 「河内川ダム建設工事に関する基本協定書」変更
(福井県・小浜市・上中町) 工事完成期限日を平成14年3月31日までに延期

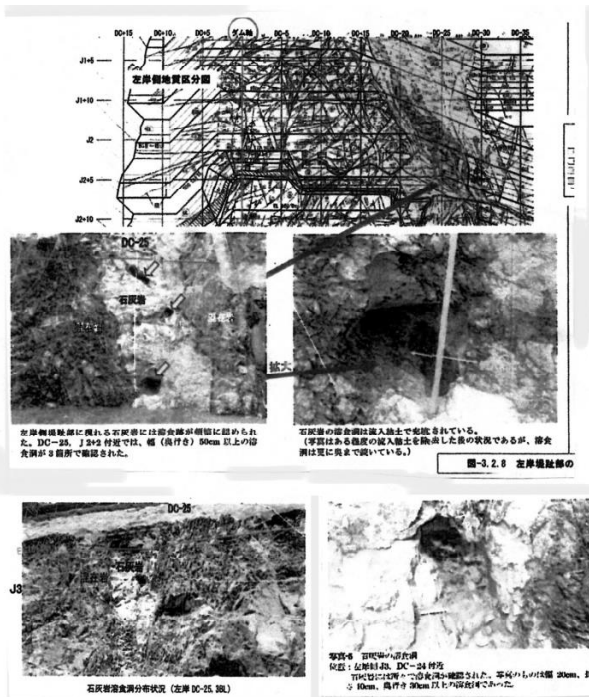
平成 8 年度 (1996)	: ダムサイト地質調査	0
	ダム本体工事費予算	41 億 4,500 万円
平成 9 年度 (1997)	: ダムサイト地質調査	0
	ダム本体工事費予算	41 億 4,500 万円
平成 10 年度 (1998)	: ダムサイト地質調査	0
	ダム本体工事費予算	40 億 4,500 万円
平成 11 年度 (1999)	: ダムサイト地質調査	0
	ダム本体工事費予算	38 億 4,500 万円
平成 12 年度 (2000)	: ダムサイト地質調査	0
	ダム本体工事費予算	34 億 4,500 万円
平成 13 年度 (2001)	: ダムサイト地質調査	0
	ダム本体工事費予算	34 億 4,500 万円

平成14年(2002) 3月29日 「河内川ダム建設工事に関する基本協定書」変更
(福井県・小浜市・上中町) 総事業費を 234億円から 415億円に増額
工事完成期限日を平成24年3月31日に延期

この時点で国と福井県の裏取引が成立したものと見てよい。
多目的ダムは放棄して洪水調節専用ダムに変更するが、福井県は多目的ダムとして国に補助金交付を申請、福井県は国の原発政策に全面的に協力するという合意・・・
以後、膨れ上がった財源を“餌”に無駄遣い、カラ工事、カラ業務の饗宴の限りが繰り返される・・・ 嗚呼

平成 14 年度 (2002)	: ダムサイト地質調査	0
	ダム本体工事費予算	173 億 3,700 万円
平成 15 年度 (2003)	: ダムサイト地質調査	0
	ダム本体工事費予算	173 億 3,700 万円

(次号に続く)



河内川ダムで試験湛水

若狭町 本体工事ほぼ完了

県が若狭町側に建設を確保する「試験湛水」を指揮する。試験湛水は満水にした状態で、ダム本体や周辺斜面の強度、測定機器などを検査する。5月半ばまでに満水になる見込みで、その後、1日11時ずつ水位を下げていきチェックする。試験終了をもって本体工事が完了する。

この日は式典が行われ、県工事業関係者ら約30人が出席。安全を祈願しながら、ダム底部にある仮排水路のゲートを開け、水をため始めた。同ダムは北川本水の洪水調節、夏季の水不足対策水湛水専用用水の確保など多目的に1987年より建設されている。

2018.12.4付 福井

14年にダム本体が竣工した。ダムは東方コンクリートダムで高さ70.5m、総貯水容量は800万立方メートル、総事業費は415億円(増築含む)。